

# 令和6年度専門高校生徒の研究文・作文コンクール 「経済同友会賞」を顕彰

経済同友会は1月17日、令和6年度専門高校生徒の研究文・作文コンクール(経済同友会・産業教育振興中央会共催)において、研究文・作文各1編を「経済同友会賞」に選出、表彰した。全国から応募された研究文43編・作文260編の作品の中から、同賞に選出された2作品を紹介する。なお、作品は全文本会ホームページで公開している。



みんなで描く  
みんなの未来  
プロジェクト

## 経済同友会審査委員会

### ◆審査委員長

日色 保 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長  
(日本マクドナルドホールディングス  
取締役社長兼 CEO)

### ◆審査委員

加藤 慎章 同 副委員長 (ETS ホールディングス 取締役会長)  
挽野 元 同 副委員長 (アイロボットジャパン 代表執行役員社長)  
宮原 京子 同 副委員長 (ファイザー 取締役執行役員)

## 「経済同友会賞」授賞作品

### ■研究文の部

#### 母を救え !!

～着がえやすい服を求めて～

作品はコチラ



三重県立四日市農芸高等学校

生活文化科服飾経営コース 3年：櫻井 琉菜

#### 審査講評

●母親の苦労を何とか助けたいという強い動機に基づき、丁寧に意見を聞いた上で、服飾技術を活かし実際のソリューションに結び付けた点が素晴らしい。また、服だけに注目するのではなく、リウマチ体操を勧めるなど、生活の改善という本来の目的を見失わずに取り組んでいる点も評価できる。  
【日色】

●家族の生活に寄り添う研究として、実用性と汎用性の高さが評価できる。実際の使用者である母親の意見を反映させた工夫は非常に価値があり、実践的なアプローチが光る。今後、さらに多様なニーズに対応するために、第三者のフィードバックを取り入れることで、より完成度の高い製品へと発展することが期待される。  
【加藤】

●母親への深い愛情があふれる研究であり、大変感銘を受けた。まず、リウマチの原因や症状、予防方法が明確に分析されており、的確な理解が示されている。次に、母親のニーズを丁寧に聞き取りながら、素材選びや試作を繰り返すプロセスから、優れたプロジェクトマネジメント能力を感じられた。また、洋服だけでなく、リウマチの予防体操を取

り入れるなど、視野の広さも素晴らしい。最終的な成果物に対する母親の満足そうな様子が目に浮かぶようだった。さらに、洋服のユニバーサルデザインの道を探求したいという進路計画にも一貫性があり、自身の得意分野を活かして社会に貢献しようとする姿勢が強く伝わってきた。**【挽野】**  
**●リウマチ患者である母親(顧客)のニーズに丁寧に寄り添いながら、作成プロセスを理路整然と示し、母親への深い愛情が感じられる研究となっていた。また、被服製作をきっかけに、体操などの要素を取り入れ、母親(顧客)の生活をより豊かにする工夫がなされており、深い洞察と情熱が伝わってきた。ユニバーサルデザインのデザイナーとしての将来の活躍に期待する。**  
【宮原】

#### 受賞者・櫻井 琉菜さんのコメント

このたびは、このような名誉ある賞をいただき、本当にありがとうございました。さまざまな工夫を凝らして進めた研究であったため、それを評価していただけて、とてもうれしく思っています。母のことを考えて製作した服の完成は、普段自分のために作品を作るのとは違い、より大きな達成感を味わうことができました。今後は、多様なデザインに触れながら、母だけでなく、誰もが楽におしゃれに着るアイデアを増やせるように頑張っていきたいです。



## ■作文の部

### 思いに心を寄せて

愛知県立桃陵高等学校  
衛生看護科3年：清水 もも花

#### 審査講評

●看護対象の患者さんの身体的な状態だけでなく、その背景にある家族への思いまで含めて理解しようとする姿勢が素晴らしい。身体的にも社会的にも元の状態に戻ることが難しい患者に対して、どのように寄り添うべきかを考える中で、看護の可能性が広がった。この気持ちを持続ければ、きっと素晴らしい看護プロフェッショナルへと成長していくだろう。

【日色】

●患者の思いに寄り添い、心の交流を通じて看護師としての大切な学びを得る姿が感動的に描かれていた。患者とのかかわりを通じて成長していく姿勢が丁寧に表現されており、特に相手への思いやりが強く印象に残った。看護師としての素質を感じられ、今後のさらなる成長が期待される。

【加藤】

●冒頭の患者Bさんの言葉から始まる作文は、読者を一気に引き込む力があった。Bさんとその旦那さんのやるせないストーリーが、自分の目の前で展開しているかのような錯覚を覚えるほど、見事な描写でつづられている。そのBさんに対し、試行錯誤を重ねながら悩みつつも、2週間の実習期間を通じて真摯に向き合う姿が、非常に伝わってきた。この実習体験から得た学びが、「患者さんの思いに心を

作品はコチラ



寄せて」というシンプルな一言に凝縮されており、日本の高齢化社会の課題と、それを支える看護師の献身的な姿が鮮やかに浮かび上がる読後感だった。

【挽野】

●看護実習での一人の患者さんとのエピソードが丁寧に描かれ、「看護」に対する思いが深まっていく過程が情緒豊かに表現されていた。患者さんの人生に真摯に向き合い、その感情を洞察しながら寄り添う姿勢が伝わり、非常に微笑ましく感じられた。こうした姿勢を持続すれば、きっと素晴らしい看護師へと成長していくだろうと期待させられる作品だった。

【宮原】

#### 受賞者・清水 もも花さんのコメント

このたび、このような名誉ある賞を受賞できたことを大変うれしく思います。実習の中で一人の患者さんと向き合い、実施した看護をその場のさまざま「思い」に目を向けて文にしました。目に見えない「思い」を想像し、文字に起こすのはとても難しかったですが、実習を振り返りながら何度も書き直し表現しました。学生でまだまだ未熟ですが、自分にできることを考え、患者さんに実施した看護を貴会から評価していただき、私の自信となっています。これからも経験を積み、学び、理想の看護師になれるよう、努力していきます。



## 専門高校生徒の研究文・作文コンクール概要

本コンクールは1982年から産業教育振興中央会が主催し、実施してきた歴史のある事業である。経済同友会はこれまで、学校と経営者の交流活動や震災復興プログラムなどで、教育や将来の産業を担う若者の支援をしてきた。本コンクールは、専門高校生徒の研究や学習成果に対して経済界からエールを送り、広く社会の関心を高めることを目的として、産業教育振興中央会と共に実施している。今年度で8回目を迎えた。

なお、産業教育振興中央会の現会長は経済同友会元副代表幹事の浦野光人氏、同理事長は学校と経営者の交流活動推進委員会の元委員長、杉江和男氏が務めている。

#### ■主催

公益財団法人産業教育振興中央会  
公益社団法人経済同友会

#### ■応募対象

専門教育を主とする学科(専攻科を除く。総合学科を含む)に在籍する高等学校の生徒

#### ■審査過程

全国から応募のあった研究文43編・作文260編のうち事前審査を通過した作品を、経済同友会審査委員会にて、①妥当性②論理性③独創性④説得力⑤将来性の視点から審査した。また、産業教育振興中央会は別途、研究文8編(最優秀賞1編、優秀賞2編、佳作5編)・作文10編(最優秀賞1編、優秀賞4編、佳作5編)を入選作品として決定した。